チュチェ思想にもとづいた社会科学研究の指針

韓 東 成

チュチェ思想国際研究所理事
朝鮮大学校学長

今日のチュチェ思想研究セミナーの開催をともにお祝いし、世界各地からの来賓の方々を心から歓迎いたします。

昨年の「金日成主席生誕110周年慶祝・チュチェ思想研究全国集会」では、金日成・金正日主義の創始と深化発展について発言させていただきました。

今年は、チュチェ思想国際研究所理事長がオンライン参加され、日本とともにアジア、ラテンアメリカ、ヨーロッパの著名な研究者が集い、国際的規模のセミナーが開催された機会に、わたしたちの研究活動の方向性について考察したいと思います。

そこでテキストとなるのが、金正恩総書記が2012年12月1日、創立60周年を迎えた朝鮮社会科学院の科学者と活動家に送った書簡「われわれの社会科学は全社会の金日成・金正日主義化偉業遂行に積極的に貢献しなければならない」です。

1、「われわれの社会科学は全社会の金日成・金正日主義化偉業遂行に積極的に貢献しなければならない」について

昨年の11月29日平壌で開催された、著作発表10周年を記念する社会科学部門研究討論会では、この著作を「主体的社会科学の発展の道を示した不滅の大綱」と、また「社会科学院学報」2022年4号では「主体的社会科学建設において恒久的に掲げるべき綱領的指針」と位置づけています。

著作は、朝鮮社会科学院の60年史にたいする総括と評価、新時代における社会科学の任務と課題、その方途などで構成されています。

まず、朝鮮戦争の砲火の中で創立した社会科学院が朝鮮革命の前進とともに歩んできた60年を、誇らしい発展の道として総括しています。

何よりも、金日成主席はチュチェ思想を創始し主体的社会科学の始原を開いた自主時代の社

会科学の元老であり、金正日総書記は自主時代の社会科学発展に不滅の貢献をした思想理論の英才、社会科学の巨匠であるとしています。

そして、主席と総書記の賢明な指導と温かい配慮のもとに社会科学院が労働党の頼もしい思想理論機関、共和国の総合的な社会科学研究拠点に発展し、朝鮮革命の各時期、党と領袖の思想を擁護するとともに、貴重な科学研究成果で国と民族の精神文化的富を豊かにしたことを評価しています。

そして、思想理論の発展と革命の遂行に貢献した社会科学院の科学者と活動家、全国のすべての社会科学者に熱烈な祝賀と感謝をおくっています。

著作には、全社会の金日成・金正日主義化を全面的に実現する新たな歴史的段階における社会科学の任務と課題、その方途が示されています。

社会科学の基本任務として、主席と総書記が積み上げた業績を輝かし、社会主義建設が提起する理論実践的問題を解決することを社会科学建設の総体的方向として、金日成・金正日主義社会科学の革命的性格と誇らしい伝統をあくまで継承することをあげています。

また、①主体的方法論の適用②理論と革命実践を結合③歴史主義原則の堅持を、チュチェ思想にもとづく社会科学発展の最も正しい道、社会科学研究の成果を保証する原則的要求としています。

次に、社会科学院を、国の社会科学研究の中心拠点、党と国家の科学理論諮問機関と新たに位置づけながら、その活動で転換をもたらすための課題を提示しています。

まず、金日成･金正日主義の真理性、独創性、生命力の論証と、朝鮮人民が革命と建設で収めた成果と経験の科学的体系化、理論化、そして社会科学各部門のさらなる発展と社会主義建設で提起される諸問題の研究解明です。

哲学、社会政治学、経済学、法律学、歴史学、言語学、文芸学、民族古典学など社会科学の分野別方向性が明らかにされています。

朝鮮の歴史資料とともに他国の歴史、文化、社会経済発展に関する資料の収集整理、政策的に解決すべき現実問題への効果的対策案の作成、応用科学や境界科学のような新たな研究分野の開拓、チュチェ思想研究活動をはじめとする対外学術交流の強化、質の高い社会科学図書の執筆および海外への発信について言及しているのが注目されます。

また、社会科学院が果たすべき役割として、提起される諸問題を統一的に解決するための社会科学研究全般に対する掌握と集団的知の発揮による研究事業の推進が指摘されるとともに、その方途として社会科学者の革命的インテリとしての責任感と役割、知的資源を蓄積利用するための社会科学情報活動、主体的社会科学の将来を担う人材の育成、そして社会科学院の活動に対する指導の強化と社会的・国家的関心の向上などが示されています。

著作の最後の部分では、「社会科学者は社会的富のなかで最も重要でかつ価値ある思想的精神的富を創造する国の貴重な人材」としながら、社会科学者に対する大きな信頼と期待を表明しています。

2、チュチェ思想研究の原則的諸問題

今日、世界のチュチェ思想研究活動は、各界各層の活動家と研究者によって幅広くおこなわれています。

社会的役割や職業はもちろんのこと、専門分野や研究対象においてもチュチェ哲学、チュチェの思想・理論・方法の原理的研究をはじめ、政治、経済、歴史、文学芸術など多岐にわたり、あくまでも各々の国と地域における人々の志向と要求、その実情に応じた活動として繰り広げられています。

すでにみたように著作は、朝鮮における社会科学の基本任務を主席と総書記が積み上げた業績を輝かし、社会主義建設が提起する諸問題を解決することとしていますが、世界のチュチェ思想研究はチュチェ思想の創始者、継承者の思想と業績に学び、それぞれの実践が提起する問題に解答を与えるまさに主体的社会科学研究活動であると言えます。

したがってこの著作は、朝鮮の社会科学者のみならず、世界のチュチェ思想研究者にとってもみずからの研究活動の指針となりえます。

特に「社会科学発展の最も正しい道、社会科学研究の成果を保証する原則的要求」として提示された三つの内容は、わたしたちの研究活動にそのまま適用することができます。

金正恩総書記は、著作で次のように述べています。

「社会科学建設で主体的方法論をしっかり把握して、理論と革命実践を結合し、歴史主義の原則を確固と堅持しなければなりません。主体的方法論の適用、理論と革命実践の結合、歴史主義原則の堅持、これはチュチェ思想にもとづく社会科学発展の最も正しい道であり、社会科学研究の成果を保証する原則的要求です」

第一は、主体的方法論の適用です。

人間中心の新しい世界観であるチュチェ思想は、世界の主人である人間の利益にもとづいて世界に対し、世界の改造者である人間の活動を基本にして世界の変化発展に対する観点と立場を確立しました。

世界に対する人間中心の観点と立場は、人間の自主的で創造的な活動を保証する認識と実践の方法論です。

主体的方法論の適用とは、チュチェ思想の世界観、人間中心の観点と立場を社会科学研究に適用することを意味します。

すなわち、あらゆる問題を徹頭徹尾人間を中心に設定し、人民大衆の要求と利益、その実情に応じて解決するということです。

人間の運命開拓に貢献することを使命とする社会科学は、必ず人間、人民大衆を中心に問題を設定し解決していかなければなりません。

また、人民大衆の運命が国と民族を単位に開拓される条件のもとで、それぞれの人民の要求と利益、その実情に応じて問題を設定し解決していかなければなりません。

金日成主席は「人民の中に哲学もあり、経済学もあり、文学もある」、金正日総書記は「人民大衆の自主的な意思と要求を集大成し体系化すれば、思想になり路線と政策になる」との言葉を残していますが、これらは主体的方法論に関する見事な名言です。

著作は、主体的方法論を適用するうえでの重要な課題としてすべての思考と実践を創造的におこなうことを強調しています。

今日朝鮮では、いかなる部門においても硬直した思考方式の克服と新時代にふさわしい大胆な革新、新しいものの創造が求められています。

社会科学者は、時代の精神と趨勢を敏感に反映し、旧態依然の思考方式を打破しながら提起される問題を革新的に解決していかなければなりません。

第二は、理論と実践の結合です。

理論と実践の結合とは、実践で提起される問題を研究対象としその研究成果を実践に具現するということです。

本来、認識と実践は運命開拓のための人間活動における二大契機であり、密接に連関しています。

金日成主席は「実践は認識の出発点であり真理の基準であり理論発展の推進力である」と述べています。

まさに理論は実践の要求から出発し、実践との相互作用のなかで発展し、その真理性と価値も実践によって検証されます。

実践が提起する問題に解答を与えられない理論、実践で検証されない理論は真の価値をもつことができません。

したがって、社会科学がみずからの使命を果たすためには、研究を実践としっかりと結びつけ切実な現実問題の解明へと向かわなければなりません。

社会科学者は、現実の中にはいり解決が待たれる問題を見出して研究対象とし、みずからの研究成果を実践に具現するために努力すべきです。

金日成総合大学の玄関ホールには、「みずからの地に足をすえ、目は世界にむけよ！」との金正日総書記の直筆が掲げられていますが、このスローガンにもとづいて社会科学を世界で最も科学的かつ革命的であるばかりでなく、牽引力や実践力においても優れたものに発展させる目標が追求されています。

著作は、理論と実践の結合のための重要な課題として提起される問題を原理的に深く解明することをあげています。

すなわち社会科学は、社会的現象や歴史的事実の解釈にとどまるのではなく、その本質と法則性を解明しなければならず、それによって社会的運動と歴史発展をおしすすめる学問となるべきだということです。

社会的現象や歴史的事実の本質とその変化発

「チュチェ思想研究セミナー」後は、「金日成主席生誕111周年、チュチェ思想国際研究所創立45周年記念　祝賀宴」がおこなわれ、モンゴルの音楽と踊り、日本歌謡、朝鮮歌謡などが披露された。

展の法則性を示してこそ、人間の運命開拓に貢献する社会科学としての生命力を保証することができるのであり、したがって社会科学論文には哲学性と新たな創造が求められることになります。

一方、理論的深みを保障するからといって専門家にしか理解できないむずかしい文章を書くのではなく、主席と総書記の人民的な文章作風に学び、論理が整然としながらもだれもが理解しやすい文章の執筆を心がけるべきです。

第三は、歴史主義原則の堅持です。

歴史主義とは、歴史性に忠実であること、すなわちあらゆる事物と現象をそれが発生し発展した歴史的環境や条件との連関のなかで考察する態度や立場です。

これは、社会科学における研究対象の特性に応じて、問題を客観的に解明し公正に評価するための原則です。

社会科学の研究対象は言うまでもなく、社会とその運動でありそれは歴史性をもちます。

具体的に社会科学は、人々の運命開拓と社会の発展に影響を及ぼす思想や理論、歴史的事実と史料などを扱いますが、それは過去、現在、未来という連関のなかで一定の環境と条件のもとで発生し発展します。

歴史主義の原則を堅持してこそ、過去に提起された問題も今日の実践が提起する問題も、抽象論ではなく時間的連関のなかで解明し歴史的公正性をもって評価することができます。

そして、現在だけではなく将来にわたっても価値をもつ研究となることができます。

社会科学研究では、歴史的事実と史料に依拠するのはもちろんのこと、歴史的脈絡やコンテキストを無視して主観的に分析したり評価してはならず事実を誇張したり歪曲してはなりません。

以上、主体的方法論の適用、理論と実践の結合、歴史主義原則の堅持について解説しましたが、その根底には社会科学に対するチュチェ思想の理解があります。

すなわち、社会科学は本質において、人間の運命開拓のための社会とその運動に対する体系的な認識活動であり、その主体は人間、人民大衆であるということです。

整理するならば、主体的方法論の適用は、社会科学の主人にたいする理解、理論と実践の結合は社会科学の目的と使命にたいする理解、歴史主義原則の堅持は社会科学の対象的特性に関する理解にもとづいたものであると位置づけることができます。

そしてこれらは、わたしたち世界のチュチェ思想研究者にとってもみずからの研究活動の方向性を示しその成果を保証する指針であると言えましょう。

最後に、金正恩総書記の著作を指針としてチュチェ思想研究をさらに深め、わたしたちの実践が提起する問題に解答を与えるとともに、世界のチュチェ思想研究者との交流を積極的におしすすめ世界の自主化に貢献する決意を新たにしながら講演を終えます。

（2023年4月15日「チュチェ思想研究セミナー」（東京）における講演）